

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	北村 篤司
主な担当科目	教育心理学,教育相談法,臨床心理学Ⅰ,臨床心理学Ⅱ,臨床心理学特殊講義Ⅰ,臨床心理学特殊講義Ⅱ
2025年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	授業を通じて、学生が基本的な知識や理論、考え方を自分の体験と結び付けながら理解し、一人ひとりが興味関心や問題意識をもって学びを深めるための材料、時間、場を提供する。2025年度は、一部担当科目をメディア授業で実施するため、対面授業とオンデマンド型授業それぞれの良さを活用できるように、学生の意見も聞きながら、主体的に授業に取り組みやすい環境を作っていくように努める。
2025年の教育に関 する自己評価	2025年度は、一部科目をメディア授業(対面・オンデマンド併用型)で実施することに挑戦し、それぞれの授業形態のメリットやデメリット、個々の受講生に合った活用の仕方について深く考えられた点良かった。オンデマンド型のメリットも感じた一方、学生との関係構築や、関心が高くない学生の主体性をどう引き出すかといった点で課題も見つかったため、今年度の体験を生かし、担当する全ての授業において、個々の受講生をよく理解し、学生に合った学修の機会・環境を提供できるよう、さらに改善を諮りたい。
2025年のFD活動 に関する自己評価	全体研修会では、大学の置かれている状況や課題などについて幅広く学ぶことができた。ハラスメントについてなど、重要であるがきちんと考える機会をとれていなかったテーマの研修を受けることで、社会の認識や状況と照らし合わせながら、自分自身の考え方・学生への関わり方を見直すことができた。部会・分科会ごとのFD研修会では、資格課程分科会、基礎ゼミ分科会、芸術特別研究分科会のFD研修会に参加し、他の先生方との意見交換を行うことで、普段の授業や実践の振り返りを行うことができた。
授業改善のために 取り入れた研修内容	資格課程分科会、基礎ゼミ分科会、芸術特別研究分科会の研修会における、他の先生方の具体的な授業の進め方や学生との関わり方についてのアイデア(授業の進め方の工夫、評価の仕方やフィードバック、関心や意欲が高くない学生への対応、サポートが必要な学生への対応など)が参考になった。それらと比較しながら、自分が担当する授業における実施方法や学生への向き合い方・関わり方を見直した。

2025 年度(春学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2902 教員名:北村 篤司

1)アンケート結果に対する所見

教育心理学:4 クラス開講で、返却された 3 クラスの平均をとり、今学期の全科目平均と比べると Q5「興味・関心」、Q10「満足度」が 0.1 以上高く、他はほぼ変わらなかった(ただし、回答者が少なく未返却だったクラスの満足度は高くなかった)。記述回答では、要望として「全て対面授業がよい」という意見、「少しやることが多い」という意見、グループワークが上手く進まなかったことに関するコメントなどがあった。一方、オンデマンド型でも普段と変わらない学習活動ができた、日常生活でも活かせそうなことを多く学ぶことができた、というコメントもあった。臨床心理学Ⅱ:全科目平均と大きな差はなかった。記述回答では、グループワークがあり色々な視点を共有できたことを良かったとする意見が多かった。

特別支援教育論:全科目平均と比べて、学生の興味・関心は高かったが、満足度はやや低かった。集中講義ということもあり、回答者の割合が少ない点も課題である。

2)要望への対応・改善方策

教育心理学:課題の負荷について、2025 年度から、レポート課題の回数を 2 回から 1 回とし(意欲があれば 2 回書いてもOK)、1 回分については別課題に変更し、負担軽減を計った。それでも負荷を感じている受講生もいることを踏まえ、課題や成績評価について引き続き検討していきたい。グループワークに関しては、上手く進むとき、進まないときの差が大きく、受講生・グループの状況を丁寧に観察し、上手くいっていない場合に積極的に調整できるように改善する。また、今年度は本科目をメディア授業として、対面 6 回・オンデマンド型 8 回で開講した。授業内のコメントシートでは、対面がよいという意見、オンデマンド型がある方がよいという意見の両方があり、対面に戻すか、併用型で行うか、双方のメリット・デメリットを整理し、もう一度検討したい。

臨床心理学Ⅱ:特に要望はなかったが、興味関心や満足度が高い学生が多かった一方、それらが低い学生も若干おり、そうした受講生の意欲・関心を高めるアプローチをより工夫して行いたい。

3)今後の課題

どの授業でも、グループワークを取り入れているが、今回のアンケートや授業のコメントで、他者の意見に触れたり、話し合ったりすることで深い学びができたという意見が多く寄せられた一方、残念ながらグループワークが上手く進まずよくない体験をしたという意見もあった。様々な受講生がいる中で、一人一人の学生、クラス全体の状況をよくみて、受講生の関係性にも配慮しながら、やり方を画一化せず、柔軟に授業展開を行えるようにしたい。クラスの状態・雰囲気に応じて、学生と協働して、対話的な授業を作っていくことを意識する。

以 上

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2902 教員名:北村 篤司

1)アンケート結果に対する所見

教育相談法は、月4・月5・月6・水1の4クラス開講だが、4クラスの評価の平均値を出すと、概ね全体平均と同程度だった。0.1 以上差があった項目は、Q1「教育到達目標と学修成果」、Q5「興味・関心」が 0.1 程度下回り、Q6「授業における工夫」Q10「満足度」が 0.1～0.2 程度高かった。多くはないが興味・関心を持っていない受講者もあり、授業内容に興味薄い学生にも関心をもってもらえるようなアプローチをより工夫していきたい。

臨床心理学Ⅰは、全体平均の数値と比較すると、Q5、Q6、Q8、Q10 が 0.1 以上高くなっていた。

共同で担当している教育実習および教職実践演習については、Q5「興味・関心」や Q10「満足度」が平均よりも高く、受講者の動機やコミットメントが高いことが感じられた。

2)要望への対応・改善方策

教育相談法では、自由記述での要望として「第 13 回の復習・問題も何らかの形でほしい」「テストの復習問題の答えを配ってほしい」「もう少し声のボリュームがあるといい」等の記載があった。2025年度より授業が14回となり、最終回に試験を行うようにした関係で、13 回の復習クイズを実施しなかったが、事前配付するなど何らかの形で提示できるよう改善したい。テストの復習問題については、答えを配付することで、暗記のみの勉強につながらないか懸念があるため、提示の仕方などを検討したい。声の大きさについて、履修者が多いクラスはマイクを使用するようにしていたが、より徹底したい。

臨床心理学では、「周りの人との話し合いが苦手」というコメントがあった。科目の性質上、グループワークを通じた学修が必要と考えているが、グループ等でのワークが苦手な履修者もいるので、ワークの形態を多様にしたり、雰囲気作りの工夫を行ったりする努力を続けたい。

3)今後の課題

担当している科目では、ワークやロールプレイ、ディスカッションなどが学修において重要と考えている。これらが苦手な学生や、授業への興味が強くない学生もいるため、アイスブレイク等の雰囲気づくりや、ワークの導入や流れを工夫し、できるだけ受講者全員が主体的に参加しやすい環境作りに努めたい。また、ワークの振り返りの時間も大切にしたい。

また教育相談法の授業では、Kahoot を使ったクイズ形式の演習が好評だったので、今後も積極的に ICT のツールも活用し、学びやすい環境づくりに取り組みたい。

以 上